

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私」

8回生の嶋みはる (旧姓：吉田)です。

私は専攻科を卒業して10年経ち、今は訳あって専業主婦をしています。

専攻科に入学したきっかけは高校時代のホームヘルパー研修です。元々福祉に興味があり、ホームヘルパーの資格を高校で取れると分かり、即応募しました。その時はいつか福祉の仕事が出来たら良いなあというくらいの気持ちで取得し、大学は幼児教育・保育科に進みました。

そこで専攻科福祉専攻の存在を知り、幼児教育よりも福祉に従事したいと思い、専攻科福祉専攻に進みました。

専攻科福祉専攻では実習で様々な施設に行きましたが、特に障害者施設が印象に残っています。その施設では、担当させて頂いた方の娘さんへのクリスマスカードを作りました。

その娘さんは目が見えない方だったので、立体的な物を作りたいとおっしゃりどういった感触なら分かりやすいかを一緒に考えました。

その中でも「娘は星が好きだから」とか「この色なら娘も分かるかなあ」など、娘さんの事を考えている利用者様はとてもイキイキしていたのを覚えています。

やっぱり、施設に入所した後も家族との繋がりを大事にしていける介護福祉士になりたいと思いました。

卒業してから、病院・特別養護老人ホームと2か所勤めましたが、場所が変わっても介護福祉士の信念は変わりません。常に「利用者が望んでいることは何か」を考えることです。業務に追われると利用者様の事よりも自分本位になりがちです。

そんな時は、専攻科福祉専攻で気づいた事、習った事を思いだし、本当に人間が生きていくときに大切な事はなにか、家族と離れて暮らして介護を受けざるを得ない人の思いを考えながら真の介護業務に当たって下さい。

2021年12月

8回生 嶋みはる(旧姓：吉田)